

Arcserve® Unified Data Protection v6.5

ライセンスガイド

> 1. ライセンス選定方法

Arcserve UDPは以下の手順でライセンスを見積もります



注意：バックアップ要件を確定する際は、サポートページで
導入先サーバの動作要件を必ず確認してください

Arcserve UDP サポートページ

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3pdWAC?language=ja>

> STEP1 : バックアップ対象の選択

ライセンスは「バックアップ対象」にのみ必要です。

バックアップ対象ノード数またはバックアップ対象サーバのソケット数のライセンスが必要です。

コンソールおよび 復旧ポイントサーバ (RPS : バックアップ保存先サーバ) にライセンスは不要です。

バックアップ対象



物理サーバ



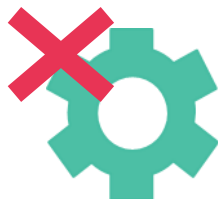
仮想サーバ



クライアントPC



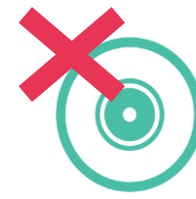
Office 365



特定のオプション



管理コンポーネント



インストール

※Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ (物理/仮想ホスト)の両方にライセンスが必要です。

> STEP2 : バックアップ要件の確定 (Editionの種類 と 含まれる機能)

Edition	サーバ用			PC用	利用 コンポー ネント
	Advanced	Premium	Premium Plus	Workstation	
イメージ バックアップ / 共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ	●	●	●	●	Arcserve UDP
重複排除	●	●	●	●	
統合管理	●	●	●	●	
バックアップデータの転送	●	●	●	●	
仮想マシンのエージェントレスバックアップ	●	●	●	●	
仮想スタンバイ	●	●	●	●	
インスタントVM	●	●	●		
バックアップ データのテープ保管	●	●	●	●	
VSSライタを利用したオンライン バックアップ ※3	●	●	●	※2	
アシュアードリカバリとSLAレポート		●	●		Arcserve Backup
ハードウェアスナップショット対応 (NetApp / HPE 3PAR / NIMBLE)		●	●		
役割ベースの管理		●	●		
Oracle RMAN 方式/ Dominoのオンラインバックアップ		●	●		
Arcserve Backup すべての機能 / 全エージェント/全オプションの利用 ※1		●	●		Arcserve Replication /HA
Arcserve Replication ファイル サーバのデータ複製		●	●		
Arcserve Replication アプリケーション サーバのデータ複製 ※1			●		
Arcserve High Availability ファイル / アプリケーション サーバの自動切替 ※1			●		

※1 : 「全機能」とは、日本語の動作要件に記載されている製品(機能)が対象です。

※2 : Microsoft SQL Server Express Editionのみオンライン バックアップをサポートします。

※3 : Office 365 (Exchange OnlineおよびSharePoint Online) の保護には、別途サブスクリプションを提供しています。

> 各 Edition について

Advanced Edition とは

- ・物理または仮想環境、クラウド上で構築される Windows または Linux サーバのシステムおよびデータのイメージバックアップ およびサーバの復旧
- ・仮想スタンバイ
- ・統合管理
- ・ソース側での重複排除バックアップ
- ・バックアップ データ（復旧ポイント）の複製および遠隔転送
- ・バックアップ データのテープ保管（D to D to T）
- ・Oracle、Microsoft SQL・Exchange・SharePointのオンライン バックアップおよびデータベース単位での復旧
- ・Microsoft Exchangeのメール単位の復旧
- ・Hyper-V ホストと仮想マシンの一括バックアップおよび復旧
- ・インスタントVM
- ・バックアップデータの集約先（データストア）の提供

Premium Edition とは

このライセンスは Advanced Edition に加えて、以下のことができます。

- ・アシュアード リカバリ
- ・ハードウェアスナップショット
- ・役割ベースの管理
- ・Arcserve Backup の全機能、エージェントおよびオプションの利用
- ・Arcserve Replication のファイルサーバ レプリケーション シナリオの利用（ファイル ベースのリアルタイムレプリケーション）

Premium Plus Edition とは

このライセンスは Premium Edition に加えて、以下のことができます。

- ・Arcserve Replication および Arcserve High Availability の全機能
およびシナリオの利用(※)

Workstation Edition とは

- ・クライアントOSのバックアップに最適化したライセンスで、重複排除、統合管理、遠隔転送、仮想スタンバイ、バックアップデータのテープ保管が行えます

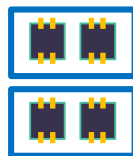
> STEP3 : 課金方法の選択



サーバ台数 課金 (per Server)

保護対象の物理サーバ台数分のライセンスを購入する
(物理サーバに適用)

Advanced



CPU ソケット数 課金 (per Socket)

保護対象サーバのCPUソケット数分のライセンスを購入する(未使用ソケット分は不要)

Advanced/
Premium/Premium Plus



データ容量 課金 (per Terabyte)

保護対象サーバの総データ容量分のライセンスを購入する ※1

Advanced/
Premium/Premium Plus

注 :

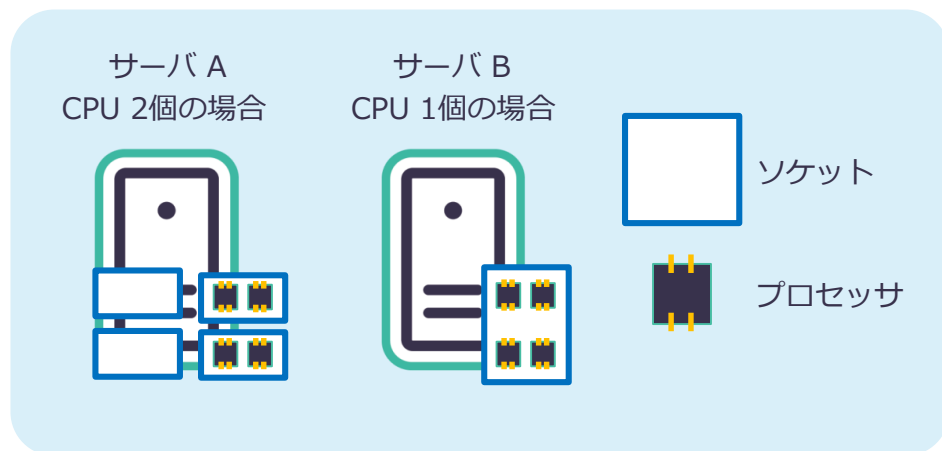
1. Workstation Edition はクライアントPC台数の課金
2. Exchange Online および SharePoint Online はユーザ数での課金

※1 Office 365 データの保護も可能

> CPU ソケット単位 (per Socket) とは

ソケット単位 (per Socket)とは、保護対象サーバが使用している物理プロセッサ (CPU) ソケット数のライセンスを購入する課金方法です。プロセッサ接続のない空きソケットは、ソケット数に計上する必要ありません。マザーボードは1つ以上のソケットを持つことができます。ソケットあたり「コア」（物理マイクロプロセッサ内の論理マイクロプロセッサ）数に制限はありません。

プロセッサのない空のソケットは、ソケット単位のライセンスは必要ありません。例えば、単一のソケットに取り付けられたクアッドコア（Quad Core）CPU（下図サーバ B）を実行しているサーバーにのみ1ソケットのライセンスが必要です。



- **サーバ A** には、2ライセンスが必要です。デュアル コア プロセッサで 2 つのソケットが使用中です。
- **サーバ B** には、1ライセンスが必要です。クアッドコアプロセッサで 1 つのソケットが使用中です。

> CPU ソケット数の確認方法

Windows OS の CPU ソケット数確認例

「systeminfo」または「msinfo32」を使用して確認することができます。また、Windows 2012 以降の OS では、タスク マネージャで確認することができます。

Linux OS の CPU ソケット数確認例

「cat /proc/cpuinfo | grep processor」を使用して確認することができます。

※ ただし、Hyper-Threading (ハイパースレッディング) が有効な環境では、
「cat /proc/cpuinfo | grep "physical id"」を使用して確認することができます。

VMware の CPU ソケット数確認例

vSphere Client から ESXi に接続して「サマリ」タブの [プロセッサ ソケット] で確認することができます。

> データ容量課金の考え方

データ容量課金の対象は、対象の台数や CPU ソケット数に関わらず保護対象データ容量の総計です。

> 2. ライセンス構成例

	No.	構成例
物理環境	1	物理サーバを NAS にバックアップ
	2	Linux 物理サーバのバックアップ
	3	物理サーバを復旧ポイントサーバ(RPS)にバックアップ
	4	復旧ポイントのコピー
	5	ファイル コピー
	6	ファイルサーバと管理コンソール/RPSのバックアップ
	7	共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ
	8	Windows/Linux混在環境バックアップデータのテープ保管
	9	物理サーバのバックアップと災害対策
	10	vSphereを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	11	遠隔地のvSphereを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	12	Hyper-Vを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	13	遠隔地のHyper-Vを使用した仮想スタンバイによる業務継続
	14	AWS EC2/Azure 上に仮想スタンバイし業務継続
	15	インスタントVMによる短時間での復旧
	16	Microsoft SQL・Exchange・SharePoint / Oracle の無停止バックアップ

> 2. ライセンス構成例

	No.	構成例
物理環境	17	Active Directory ドメイン コントローラのバックアップ
	18	Linux Oracle のオンライン バックアップ
	19	アシュアード リカバリ (バックアップ データの確認)
	20	UDP コンソールを操作するユーザごとに権限を割り当て
	21	ストレージ連携による高速バックアップ
仮想環境	22	UDP エージェントを利用したvSphere / Hyper-V 仮想マシンのバックアップ
	23	vSphere 仮想マシンの エージェントレス バックアップ
	24	Hyper-V 仮想マシンのエージェントレス バックアップ
	25	Windows / Linux 仮想マシン混在環境のエージェント レス バックアップ
	26	Arcserve Backupで仮想マシン上のDBサーバを無停止でテープにバックアップ
	27	Arcserve Replication で仮想ファイル サーバを複製し バックアップ
	28	Arcserve Replicationで複数の仮想ファイル サーバを複製しバックアップ
	29	Arcserve High Availability で複数の仮想DB サーバをスイッチオーバ
	30	Arcserve High Availability で仮想DBサーバをスイッチオーバし、UDPでバックアップ
クライアントPC	31	クライアントPC のバックアップ
Office 365	32	Office 365 の保護 (Exchange Online と SharePoint Online)

構成例の見方

ここでは、次項に続くライセンスの例について説明しています。

環境例：

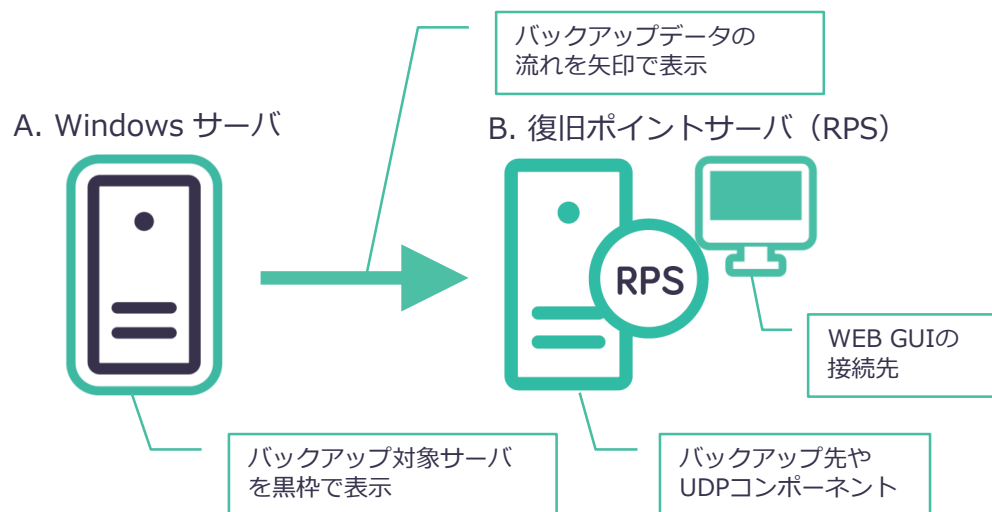
Windows サーバ 1台
復旧ポイント サーバ※ (RPS) 1台

環境例では、バックアップ対象のサーバ台数を記載しています。

要件例：

Windows サーバ全体をイメージ バックアップする
バックアップサーバでスケジュールの管理を実施する

要件例では、主なバックアップとリカバリ要件を記載しています。



※ 復旧ポイント サーバ(RPS)とは、Arcserve UDPのバックアップデータ（復旧ポイント）を保管するサーバで、RPSによりバックアップデータの重複排除や遠隔地への転送ができるようになります。
※RPSを利用しない場合も対象サーバのバックアップは可能です。
※ **以降、本資料内では『RPS』と記載します**

バックアップ対象	Edition	購入方法	数
A	Advanced	サーバ単位	1

バックアップの構成例を図にしています。
下表では、必要な Edition とライセンス数を記載しています。

arcserve®

物理環境

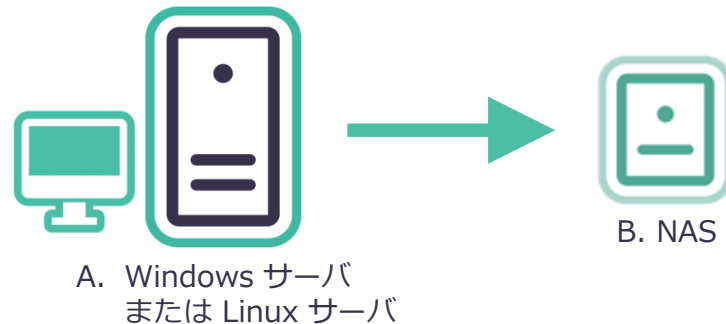
[1] 物理サーバを NAS にバックアップ

環境例

- Windows サーバ または Linux サーバ 1台

要件例

- NAS 共有フォルダにサーバ全体をバックアップ
- スケジュールはエージェントに接続しWEB GUIで操作
- 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	バックアップ対象にエージェントをインストールする最小構成です。サーバ全体をブロックレベルで増分バックアップするので、バックアップ時間短縮と保存先ストレージ使用量の削減ができます。ファイル単位リストアやベアメタル復旧、アプリケーションのオンラインバックアップも標準機能として利用できます。バックアップ先にはNAS共有フォルダの他、ローカル ディスクやUSB接続のRDXも利用できます。			

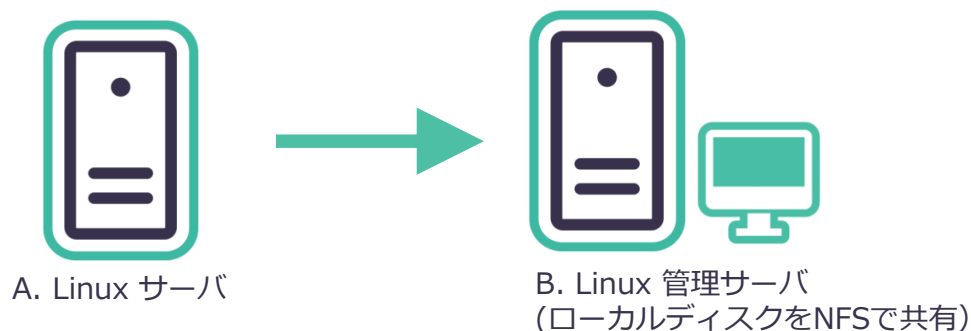
[2] Linux 物理サーバのバックアップ

環境例

- Linux サーバ 2台

要件例

- 2台の Linux サーバをNFS共有されたディレクトリにバックアップ
- スケジュールは Linux 管理サーバで統合管理
- 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



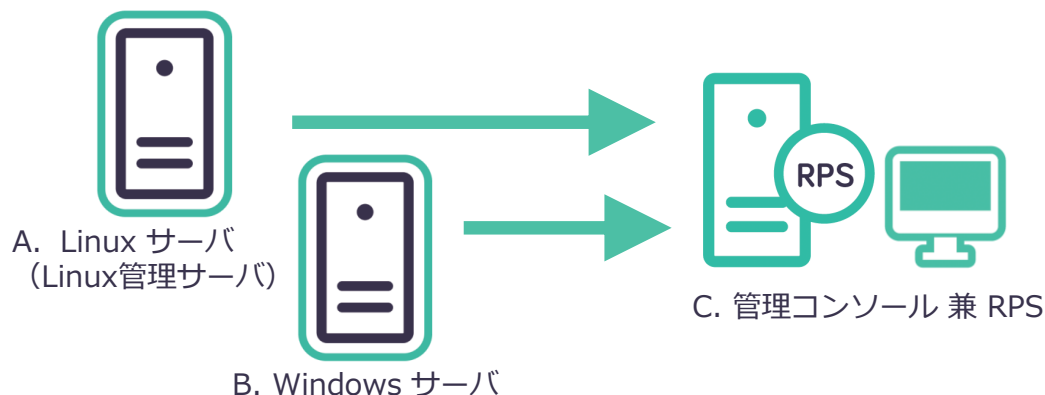
ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	Linux 単一環境でも複数サーバのバックアップを集中管理できます。UDP Linux Agentを1台のサーバだけにインストールすれば、あとは他サーバのバックアップに必要なモジュールが自動配布されるのでインストール作業は短時間で完了します。バックアップ先はNFS共有の他、CIFS共有、ローカルディスクが利用可能で、増分バックアップに対応します。			

[3] 物理サーバを復旧ポイントサーバ(RPS)にバックアップ

環境例 • Windows サーバ 1 台、Linux サーバ 1 台

要件例

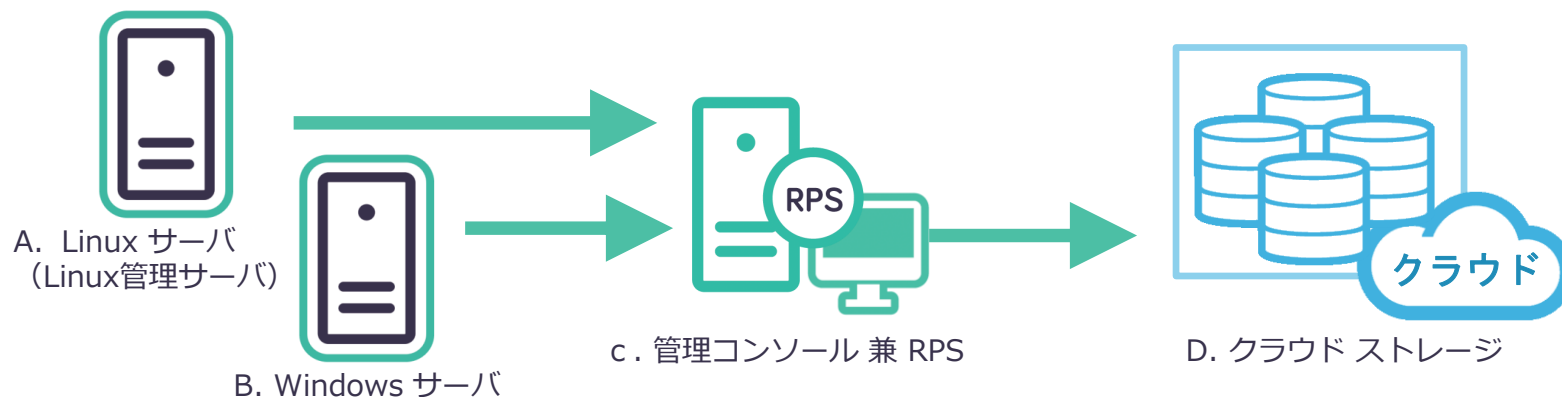
- RPS にバックアップし、バックアップデータ量を重複排除で削減
- スケジュールは管理コンソールの WEB GUI に接続し統合管理
- 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	エージェントを利用しRPSへバックアップする構成です。RPSをバックアップ先に指定すれば増分バックアップだけでなく重複排除も併用できます。重複排除はバックアップ元で重複排除したデータを転送するのでネットワーク負荷が軽減され、バックアップ時間の短縮と保存量の削減効果があります。管理コンソールを利用すればバックアップ対象にWindows/Linux、物理/仮想が混在していても1つのWEB GUIで統合管理ができます。			

[4] 復旧ポイントのコピー

環境例	• Windows サーバ 1台、Linux サーバ 1 台、管理コンソール兼RPS 1台
要件例	• Windows /Linux サーバ全体を RPS へ バックアップ • 復旧ポイント(バックアップ データ)をクラウドに 2 重化



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	ファイルサーバをRPSにバックアップします。バックアップしたデータの復旧ポイントをクラウド ストレージに 2 重化できます。バックアップ完了後に引き続いてコピーを実行することが可能です。 * バックアップ先および復旧ポイントのコピー先が共有フォルダの場合でも利用できます			

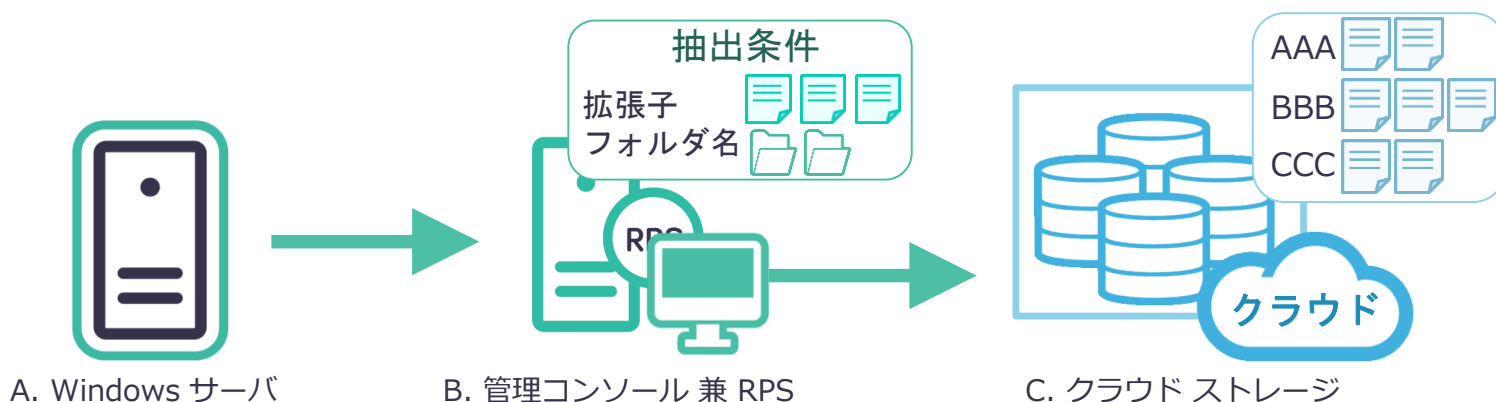
[5] ファイル コピー

環境例

- Windows サーバ 1台、管理コンソール兼RPS 1台

要件例

- Windows サーバ全体を RPS へ バックアップ
- バックアップデータからクラウドへ、重要なファイルのみを抽出しコピー



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	ファイルサーバを増分バックアップでRPSにバックアップします。バックアップしたデータから重要なファイルやフォルダを抽出し、重要なファイルのみをクラウド ストレージに2重化できます。継続増分バックアップからもファイルコピーが可能です。コピー先の保管世代を自由に設定できます。 * バックアップ先および復旧ポイントのコピー先が共有フォルダの場合でも利用できます			

[6] ファイルサーバと管理コンソール/RPSのバックアップ

環境例

- Windows サーバ 1台、管理コンソール兼RPS 1台

要件例

- Windows サーバ全体を RPS へ バックアップ
- 重複排除データストアを含むRPSサーバ全体を Arcserve Backup でバックアップ
- 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
ライセンス	A	Advanced	サーバ単位	1
	B	Premium	(Bの) ソケット単位	1
ポイント	ファイルサーバを増分バックアップでRPSに重複排除でバックアップします。重複排除が有効なデータストアを含むBサーバのフルバックアップはArcserve Backupで保護します。データストアをバックアップするにはOpen Files Agent を使用します。 * サーバ Bのソケット数が1の場合。ソケット数が2の場合は、2ライセンス必要です * Arcserve Backupの保護対象となる、すべてのサーバ/仮想ホストに "Premium Edition" ライセンスが必要です			

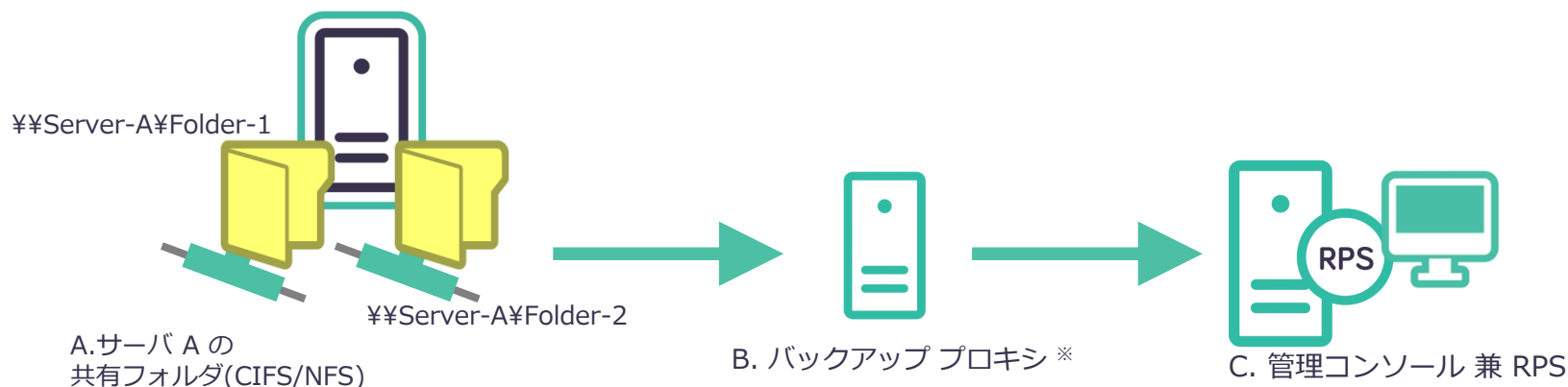
[7] 共有フォルダ (CIFS/NFS) のバックアップ

環境例

- ネットワーク上の共有フォルダ2つ、管理コンソール兼RPS 1台

要件例

- エージェントをインストールできないストレージや NAS のデータ保護
- 継続的な増分バックアップ



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	ソケット単位	1
ポイント	共有フォルダのバックアップは、サーバごとに1ソケット ライセンスが必要です。 ライセンスは1サーバあたり 1ライセンスのため、同じサーバ上の別のUNCパスから複数の共有フォルダをバックアップする場合でも、追加ライセンスは不要です。 * バックアップ プロキシをバックアップをする場合は、別途ライセンスが必要です			

※ バックアップ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバです

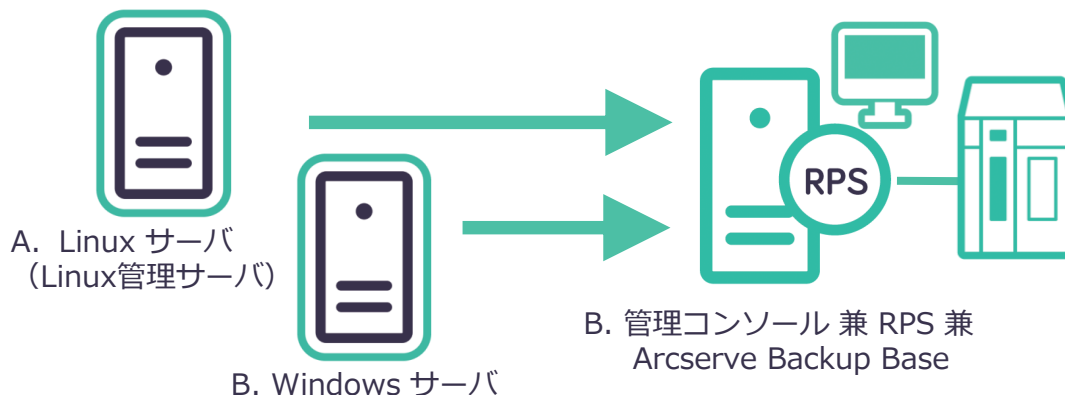
[8] Windows/Linux混在環境バックアップデータのテープ保管

環境例

- Windows サーバ 1台、Linuxサーバ1台

要件例

- Windows/LinuxサーバをRPSにバックアップ
- バックアップ データをテープに2次保管
- 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A、B	Advanced	サーバ単位	2
ポイント	Windows/LinuxサーバをRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。さらに標準機能でUDPのバックアップデータをArcserve Backupでテープへ2次保管できるので、テープ メディアによる長期保管が可能です。 * 2ドライブ以上搭載したテープ装置の利用には Premium Edition が必要です			

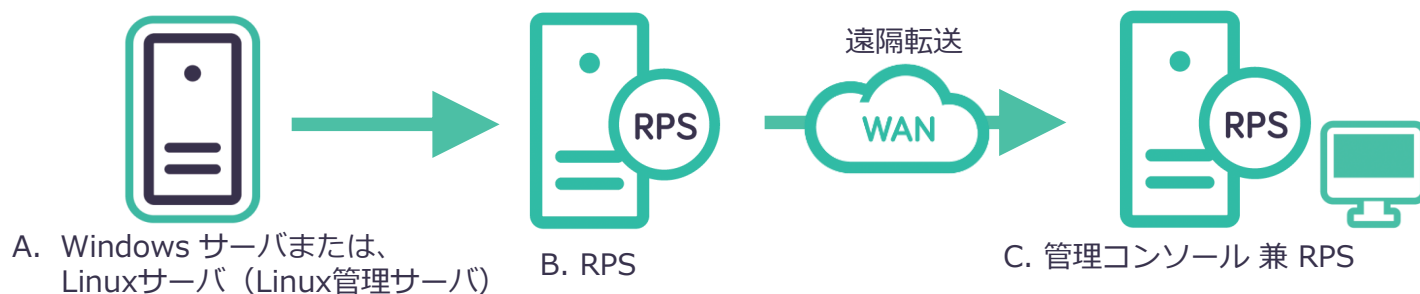
[9] 物理サーバのバックアップと災害対策

環境例

- Windows または Linux サーバ 1台

要件例

- Windows サーバをRPSにバックアップ
- バックアップ データを遠隔地のRPSに転送
- 障害時はバックアップ元または別サーバに復旧（システム保護）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Windows/LinuxサーバをRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。さらにバックアップデータを遠隔地のRPSに複製できるので標準機能だけで災害対策も実現できます。			

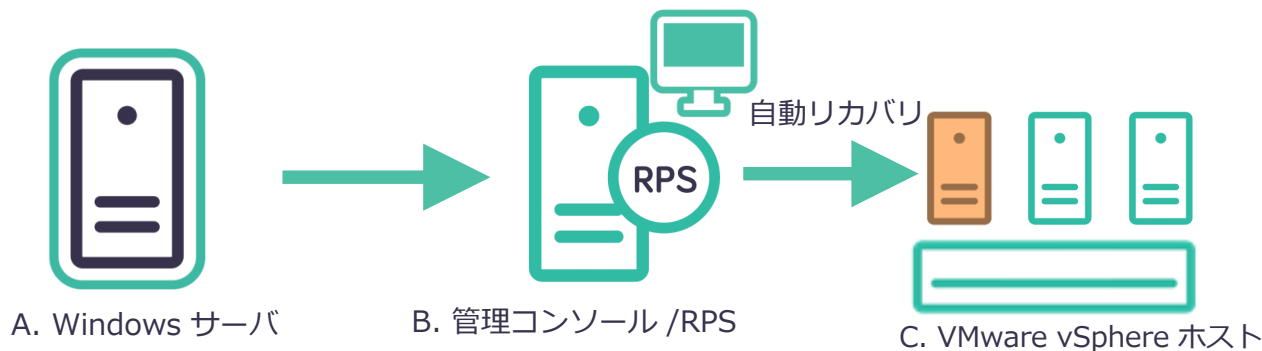
[10] vSphereを使用した仮想スタンバイによる業務継続

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- Windows サーバをRPSにバックアップ
- 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Windows サーバをRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップ完了後に自動的にリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。 * バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます			

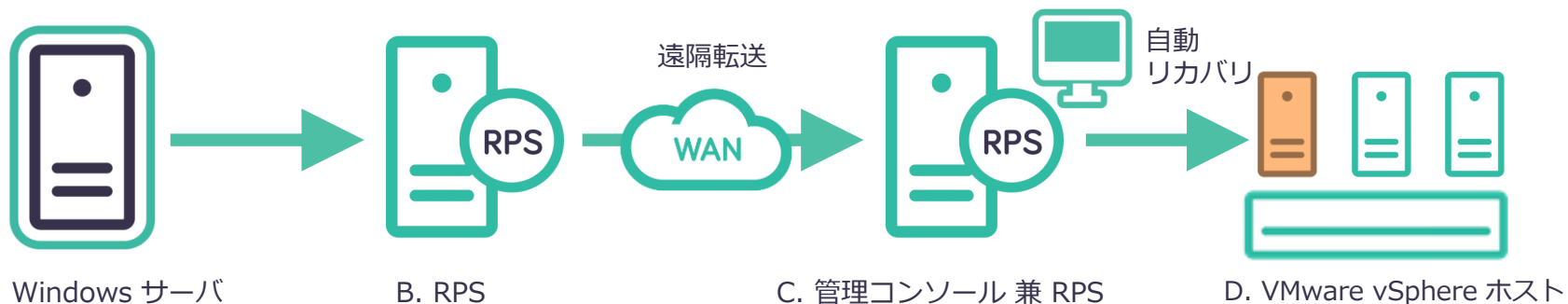
[11] 遠隔地の vSphere を使用した仮想スタンバイによる業務継続

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- Windows サーバをRPSにバックアップ
- バックアップ データを遠隔転送
- 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	WindowsサーバをRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップデータの遠隔転送も標準機能として利用可能で、バックアップ完了後に自動的に仮想マシンとしてリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。			

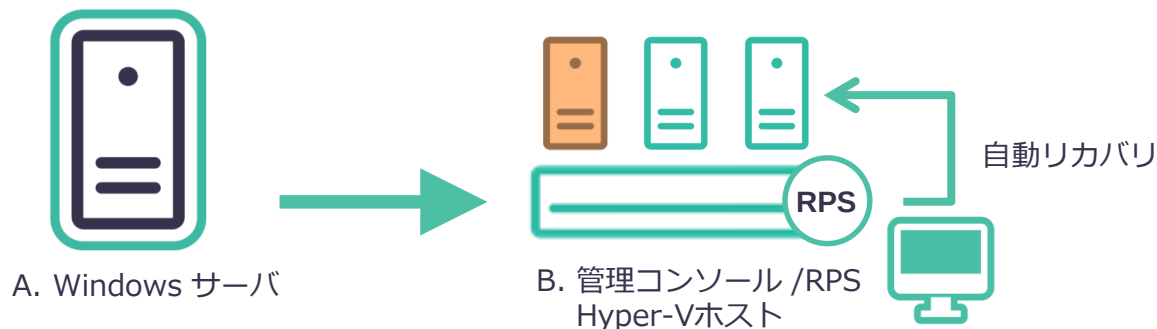
[12] Hyper-V を使用した仮想スタンバイによる業務継続

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- WindowsサーバをRPSにバックアップ
- 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	WindowsサーバをRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップ完了後に自動的にリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。			

[13] 遠隔地の Hyper-V を使用した仮想スタンバイによる業務継続

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- Windows サーバをRPSにバックアップ
- バックアップ データを遠隔転送
- 予めバックアップデータを自動リカバリしておき、障害発生時には仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	WindowsサーバをRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップデータの遠隔転送も標準機能として利用可能で、転送後のバックアップデータを自動的にリカバリしておき、障害発生時は仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。			

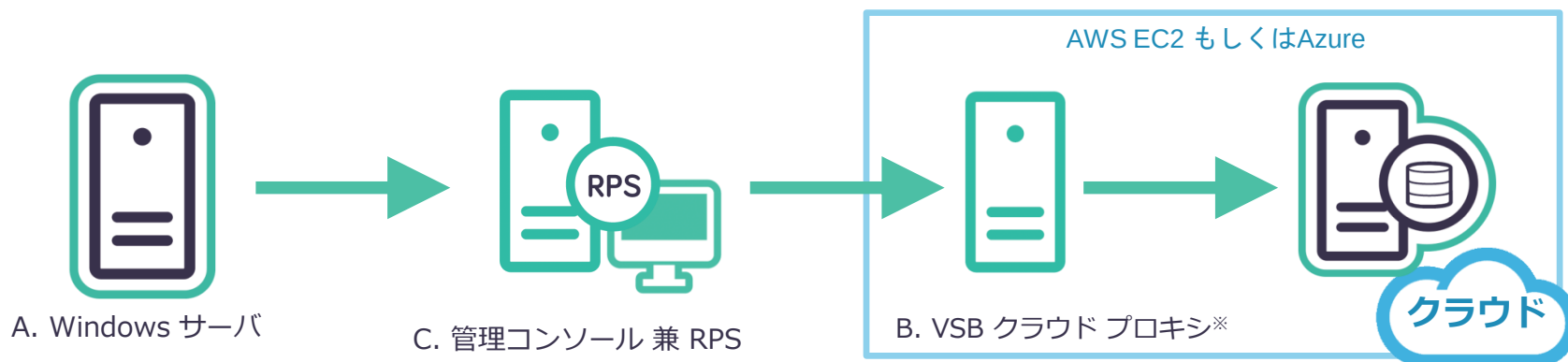
[14] AWS EC2 /Azure 上に仮想スタンバイし業務継続

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- Windows サーバをRPSにバックアップ
- AWS EC2、またはAzure に予めバックアップデータを自動リカバリし、障害発生時にはクラウド上の仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続（仮想スタンバイ）



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Windows サーバをRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。バックアップ完了後に自動的にクラウドへデータ転送を行い、障害発生時はクラウドの仮想マシンを起動するだけの短時間で業務継続できます。 * バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます			

※ VSB クラウド プロキシとは、データ転送を実行するサーバです

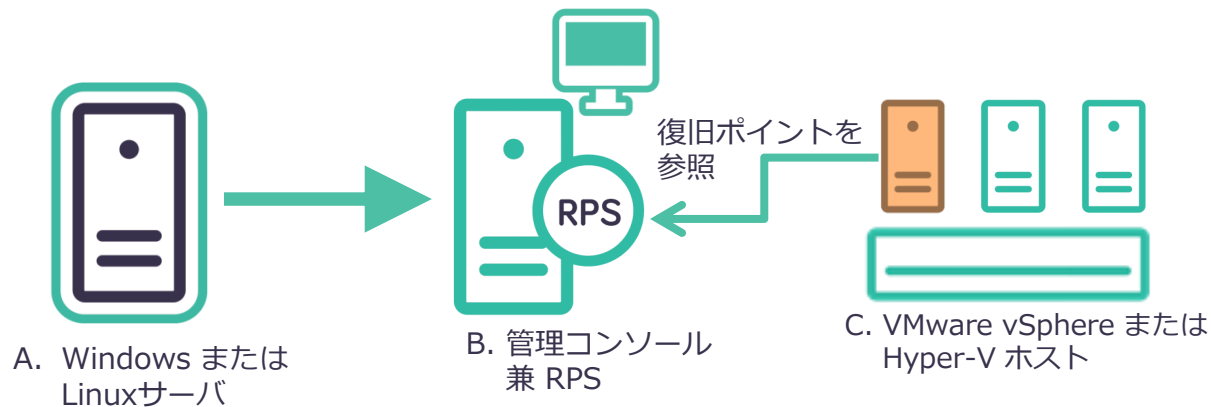
[15] インスタント VM による短時間での復旧

環境例

- Windows またはLinuxサーバ 1台

要件例

- WindowsまたはLinuxサーバをRPSにバックアップ
- バックアップデータを参照し仮想マシンとして起動して業務継続



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	インスタントVMを使用すると、バックアップ データ（復旧ポイント）を仮想ディスクとして参照する仮想マシンを起動できるため、データ転送は不要となり短時間で仮想マシンによる業務継続を実現します。とにかく短時間で復旧したい、手軽に復旧確認がしたい方向けの機能です。インスタントVMはローカル/遠隔地のどちらの復旧ポイントも参照先に指定できます。			

[16] Microsoft SQL・Exchange・SharePoint / Oracle の 無停止バックアップ

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- WindowsサーバをRPSにバックアップ
- Microsoft SQL・Exchange・SharePoint / Oracleを無停止でサーバ全体をバックアップ
- 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧
- Microsoft SQL・Exchange のDB単位リストア、Oracleの表領域単位リストア
- Microsoft Exchange のメール単位リストア（詳細リストア）

A. Windowsサーバの
Microsoft SQL、
Microsoft Exchange、
Microsoft SharePoint、
Oracle Database



B. 管理コンソール 兼 RPS

ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	Microsoft SQL・Exchange・SharePoint/Oracle DBを含めシステム全体をオンラインでRPSにバックアップします。ベアメタル復旧することもデータベース単位(Oracleは表領域)でリストアすることも可能です。Microsoft Exchangeはメール単位のリストアも可能です。DBは、同一サーバ上に複数インスタンスが存在しても1ライセンスでバックアップできます。※ バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます。 * Office 365 のExchange Onlineは別途ライセンスが必要です			

[17] Active Directory ドメイン コントローラのバックアップ

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- Active Directory ドメインコントローラをRPSにバックアップ
- 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧
- Active Directory データベースのオブジェクト単位リストア



A. Windowsドメインの
ドメインコントローラ



B. 管理コンソール 兼 RPS

ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	ドメインコントローラ全体をRPSにバックアップします。ファイル単位リストアや重複排除、ベアメタル復旧が標準機能として利用できます。また、Active Directory データベースは、オブジェクト単位リストアが可能でありユーザ単位のリストアなどが標準機能で利用ができます。 * バックアップ先が共有フォルダの場合でも利用できます			

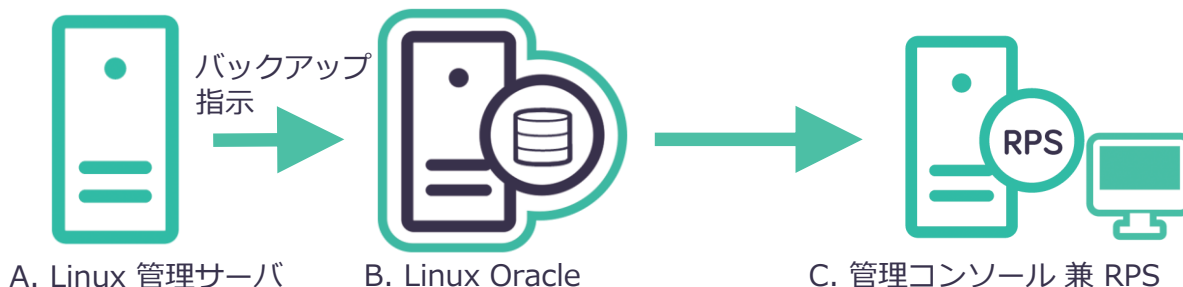
[18] Linux Oracle のオンライン バックアップ

環境例

- Linux サーバ 1台

要件例

- Linux サーバをRPSにバックアップ
- Oracle を無停止でバックアップ
- 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧
- 表領域単位でリストア



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	B	Advanced	サーバ単位	1
ポイント	アプリケーション含めシステム全体をRPSにバックアップする構成です。（※RPSを使用せず、共有フォルダへバックアップすることもできます）バックアップ前にスクリプトを自動実行し、Linux Oracleをバックアップモードに変更することでOracleを無停止でバックアップします。障害時は表領域単位のリストアやサーバ全体のリカバリに対応します。同一サーバ上に複数インスタンスが存在しても1ライセンスでバックアップできます。ライセンスを追加することで B. Linux管理サーバをバックアップすることもできます。			

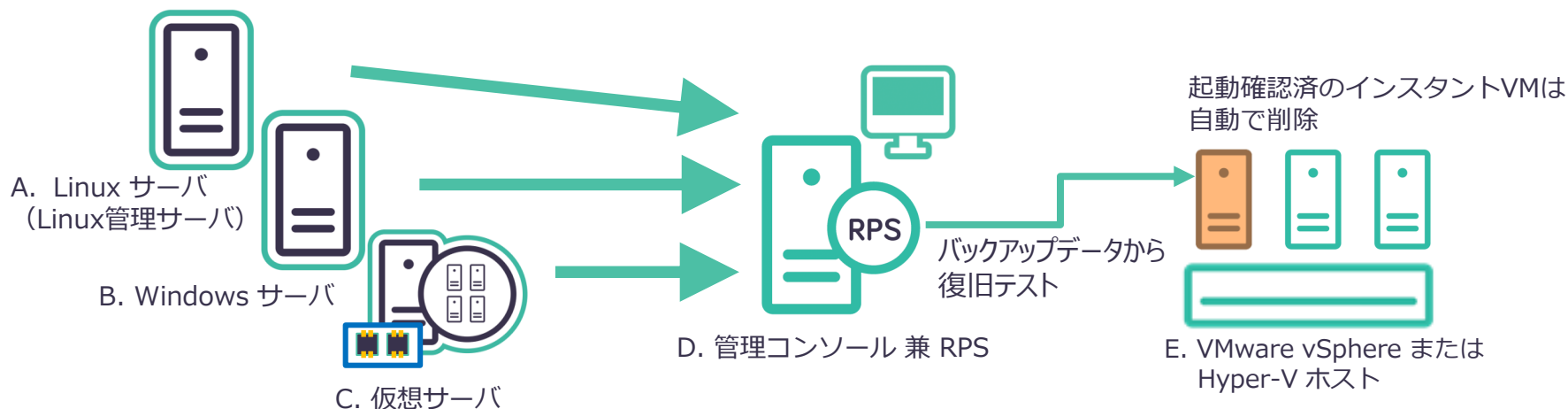
[19] アシュアード リカバリ (バックアップデータの確認)

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- RPS にバックアップし、バックアップデータ量を重複排除で削減
- バックアップ完了後、復旧ポイントで復旧テストを実行し、データの健全性を確認



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A、B、C	Premium	ソケット単位	3
ポイント	バックアップ完了後の復旧ポイント（バックアップデータ）に対し、アシュアード リカバリを実行して復旧可能な状態であることを確認します。アシュアード リカバリは、復旧ポイントからインスタントVMの起動確認、または復旧ポイントをローカル ディスクとしてマウントしファイル システムの確認 (Windowsサーバのみ)の2種類の方法から選択できます。転送先でも復旧テストを行うことができます。 * バックアップ先が共有フォルダおよび転送先でも利用できます。			

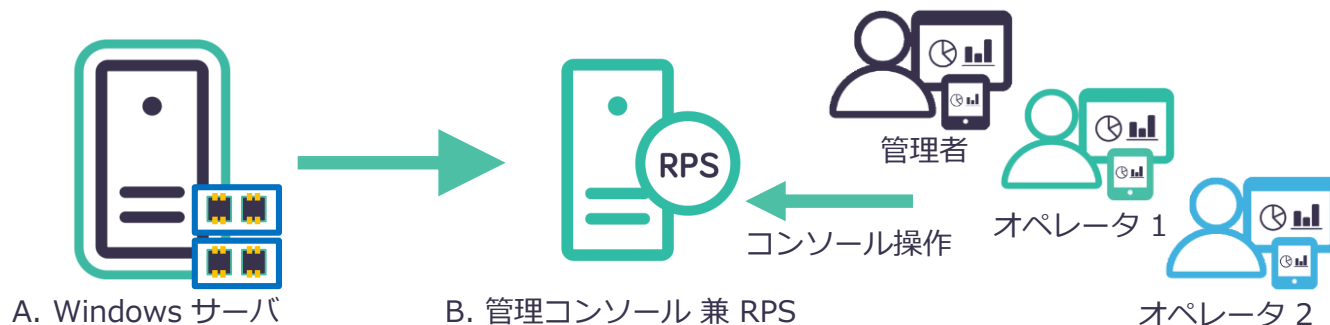
[20] UDP コンソールを操作するユーザに権限を割り当て

環境例

- Windows サーバ 1台

要件例

- Windows サーバをRPSにバックアップ
- 管理コンソールを操作するユーザに権限を割り当てセキュリティ強化
- 障害時はバックアップ元または別サーバにシステム復旧
- AサーバのCPUソケット数は2



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A	Premium	(Aの) ソケット単位	2
ポイント	Aサーバのシステム全体をRPSにバックアップします。管理コンソールを操作するユーザに権限を割り当て、バックアップ運用時のセキュリティを強化します。権限の種類には「プラン作成」、「バックアップ」、「リストア」、「ステータス参照」などから設定でき、ステータス参照しかできないユーザを設定することも可能です。			

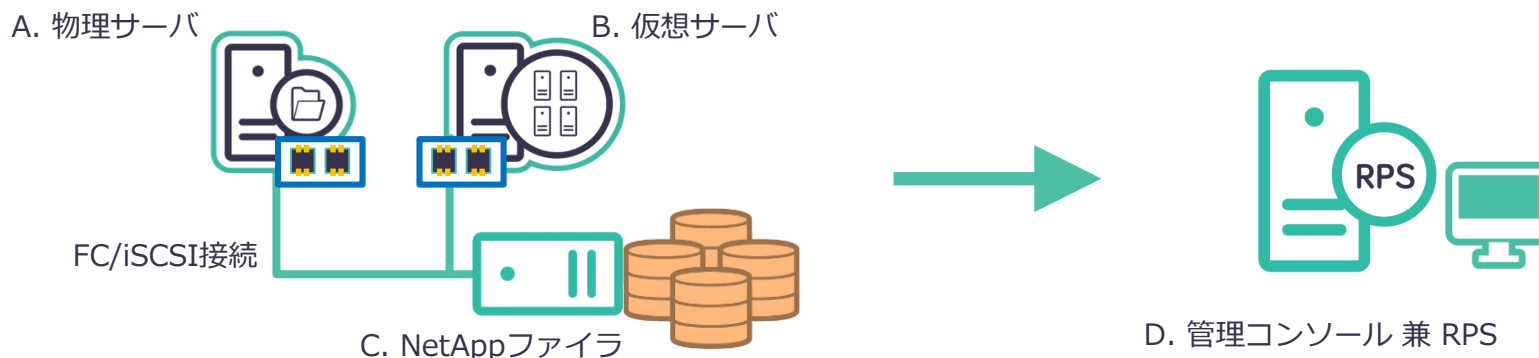
[21] ストレージ連携による高速バックアップ

環境例

- NetAppファイラ、HPE 3PAR StoreServ、Nimble Storageアレイ、Kaminario K2
上記いずれか1台

要件例

- ボリュームがマウントされているサーバのバックアップ
- ハードウェア スナップショットとの連携で、バックアップ対象の静止点を確保



	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
ライセンス	A	Premium	ソケット単位	1
	B	Premium	ソケット単位	1
ポイント	NetAppファイラ、HPE 3PAR StoreServ、Nimble Storageアレイまたは Kaminario K2 ボリュームに保存したデータをハードウェアスナップショット機能を利用しRPSにバックアップできます。UDPはマウントされたストレージがハードウェア スナップショットを利用できる場合は自動認識するのでバックアップ設定に手間がかかりません。			

仮想環境

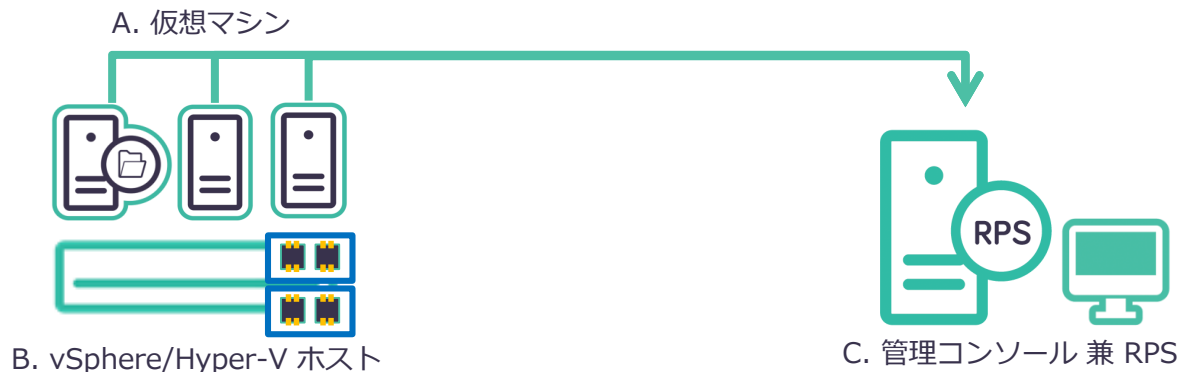
[22] UDP エージェントを利用した vSphere / Hyper-V 仮想マシンのバックアップ

環境例

- 1ホスト上の仮想マシン 複数台
- 仮想ホストの CPU ソケット数は2

要件例

- 仮想マシンにエージェントを導入し、物理サーバと同じ方法でバックアップ
- 仮想マシンのベアメタル復旧、またはファイル単位リストア



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	B上の仮想マシン	Advanced	(Bの) ソケット単位	2
ポイント	仮想ホストのソケット数にライセンスし、1ホスト上の仮想マシンを台数無制限でバックアップできます。仮想マシンに Arcserve UDP エージェントを導入し、物理サーバと同じ方法で仮想マシンをバックアップできます。仮想マシン全体の復旧、ファイル単位リストアが行え、仮想マシン上の Microsoft SQL・Exchange・SharePoint / Oracleのオンラインバックアップも行えます。			

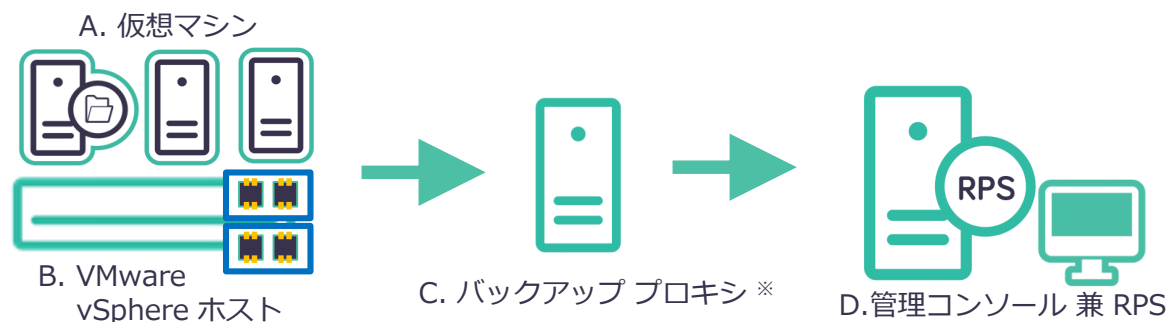
[23] vSphere 仮想マシンの エージェントレス バックアップ

環境例

- 1ホスト上の仮想マシン 複数台
- 仮想ホストの CPU ソケット数は2

要件例

- エージェントを導入せずに仮想マシンをバックアップ
- 仮想マシンの復旧、またはファイル単位リストア



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	B上の仮想マシン	Advanced	(Bの) ソケット単位	2
ポイント	vSphere 仮想マシンをエージェントレスでバックアップする基本構成です。仮想ホストのソケット数にライセンスし、1ホスト上の仮想マシンを台数無制限でバックアップできます。仮想マシンの復旧、ファイル単位リストアが行え、仮想マシン上のMicrosoft SQL・Exchange・SharePoint / Oracle のオンラインバックアップも行えます。 * バックアップ プロキシをバックアップをする場合は、別途ライセンスが必要です			

※ バックアップ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバです

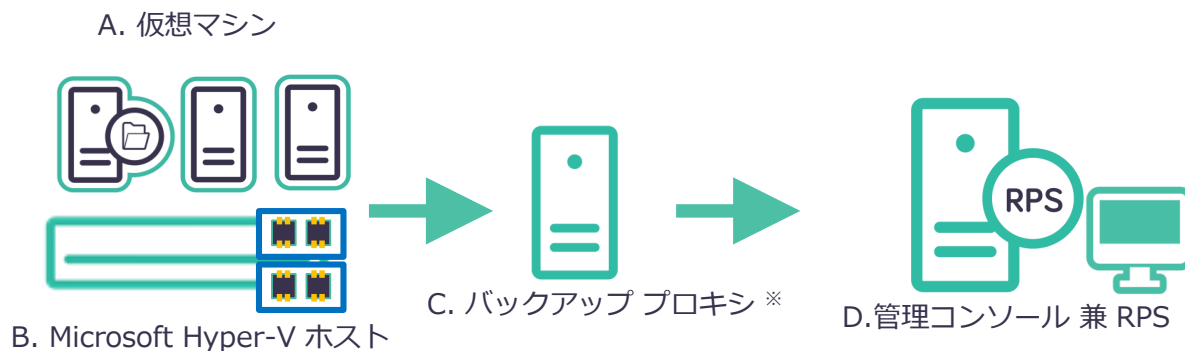
[24] Hyper-V 仮想マシンのエージェントレス バックアップ

環境例

- 1ホスト上の仮想マシン 複数台
- 仮想ホストの CPU ソケット数は2

要件例

- エージェントを導入せずに仮想マシンをバックアップ
- 仮想マシンの復旧、またはファイル単位リストア



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	B上の仮想マシン	Advanced	(Bの)ソケット単位	2
ポイント	Hyper-V 仮想マシンをエージェントレスでバックアップする基本構成です。仮想ホストのソケット数にライセンスし、1ホスト上の仮想マシンを台数無制限でバックアップできます。仮想マシンの復旧、ファイル単位リストアが行え、仮想マシン上の Microsoft SQL・Exchange・SharePoint / Oracleのオンラインバックアップも行えます。 * Office 365 のExchange Onlineは別途ライセンスが必要です バックアップ プロキシをバックアップをする場合は、別途ライセンスが必要です			

※ バックアップ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバです

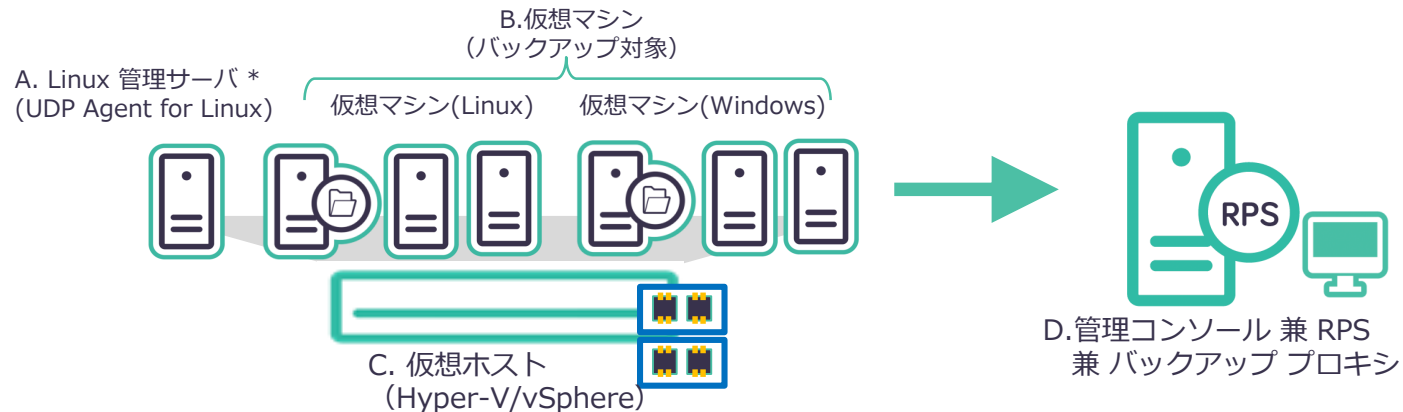
[25] Windows / Linux 仮想マシン混在環境の エージェントレス バックアップ

環境例

- 1ホスト上の仮想マシン 複数台 (Windows/Linux が混在)
- 仮想ホストの CPU ソケット数は2

要件例

- エージェントを導入せずに仮想マシンをバックアップ
- 仮想マシンの復旧、またはファイル単位リストア



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	C上の仮想マシン	Advanced	(Cの)ソケット単位	2
ポイント	Windows / Linux が混在していても仮想マシンを エージェントレスでバックアップし、仮想マシンの復旧やファイル単位リストアが行えます。バックアップ先をRPSに指定することで重複排除バックアップが行え、RPSサーバを遠隔地に追加することでバックアップデータの遠隔転送による災害対策も実現できます。 * Linux仮想マシンのファイルレベルリストアを実行するには「A. Linux 管理サーバ」が必要です バックアップ プロキシをバックアップをする場合は、別途ライセンスが必要です			

※ バックアップ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバです

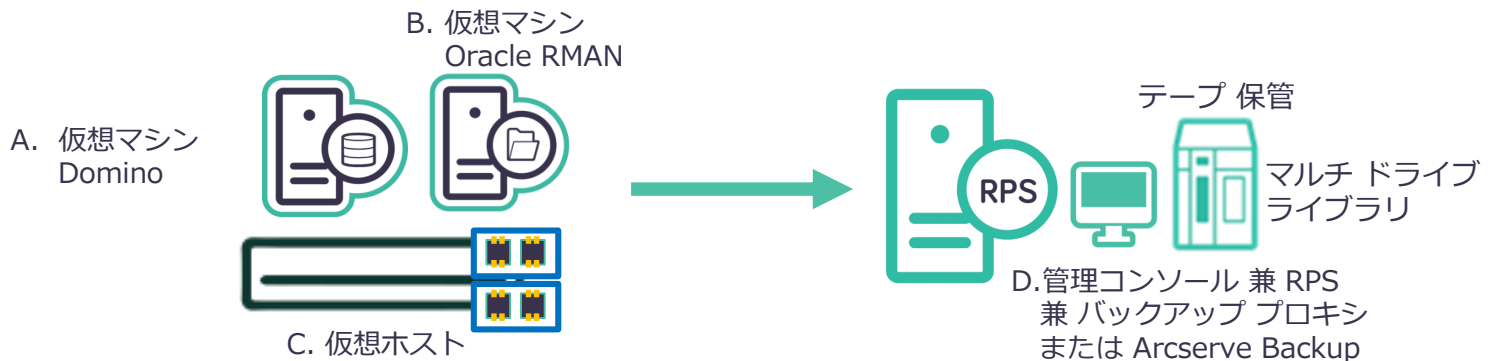
[26] Arcserve Backupで仮想マシン上のDBサーバを無停止でテープにバックアップ

環境例

- 1ホスト上の仮想マシン 複数台
- 仮想ホストの CPU ソケット数は2

要件例

- 仮想マシン上の Domino および Oracle RMAN でArcserve Backupエージェントを利用したオンライン バックアップ
- 仮想マシンをエージェントレス バックアップ
- UDPのバックアップデータはマルチ ドライブ ライブラリに2次保管



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	C上の仮想マシン	Premium	(Cの)ソケット単位	2
ポイント	Premium Edition なら Arcserve Backup 全機能が利用可能なので、Domino や Oracle RMAN でのオンラインバックアップやマルチ ドライブ ライブラリの利用ができます。保護対象の仮想マシンをArcserve Backupで保護することも、Arcserve UDPで保護することもできます。Hyper-Vホストであれば仮想ホストも保護できます。			

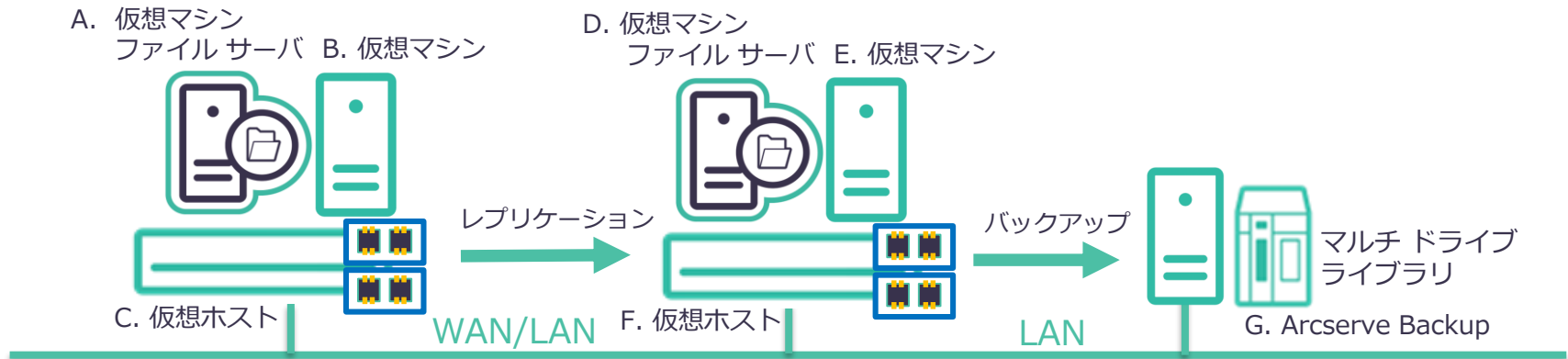
[27] Arcserve Replication で仮想ファイル サーバを複製し バックアップ

環境例

- 2台の仮想ホストと各ホスト上の仮想マシン複数台
- 仮想ホストの CPU ソケット数は各2

要件例

- ファイル サーバとして構成された仮想マシンのデータをリアルタイム複製
- 複製先の仮想マシンをバックアップ



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	C、F上の仮想マシン	Premium	ソケット単位	4
ポイント	Premium Editionに含まれるArcserve Replicationファイルサーバ版のライセンスを利用し、ファイルサーバのデータをリアルタイムに複製することができます。Arcserve Backup全機能が併用できるので、Arcserve Replicationとの連携バックアップも可能です。 * Arcserve Replication 機能を利用する場合、複製元と複製先サーバ(物理/仮想 ホスト)のソケット合計数分のライセンスが必要です			

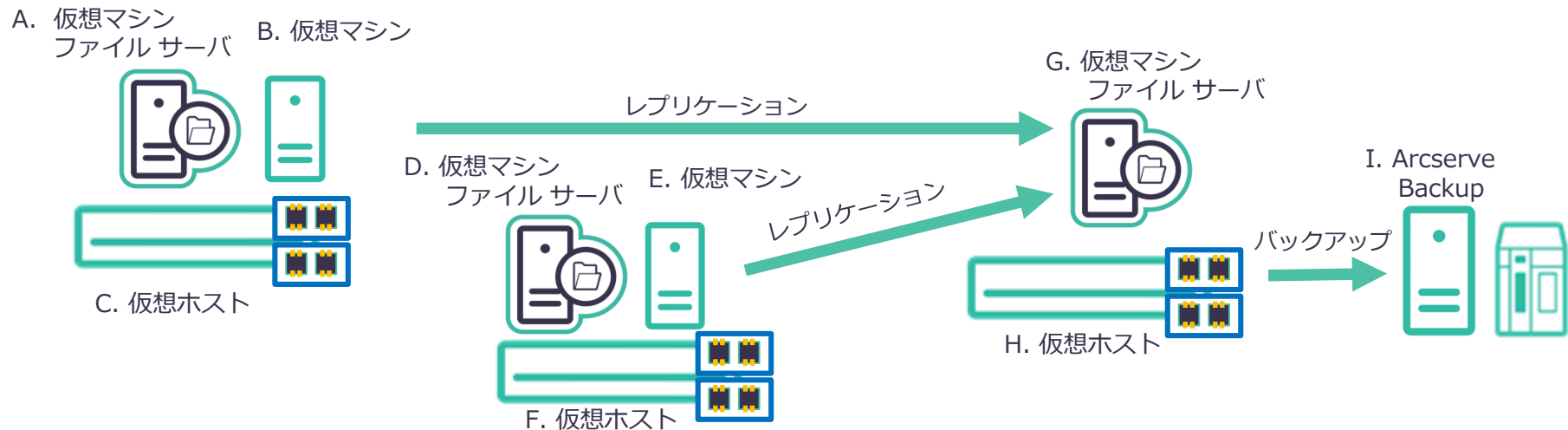
[28] Arcserve Replicationで複数の仮想ファイルサーバを複製しバックアップ

環境例

- 3台の仮想ホストと各ホスト上の仮想マシン複数台
- 仮想ホストの合計 CPU ソケット数は6

要件例

- ファイルサーバとして構成された複数の仮想マシンのデータを複製



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	C、F、H上の仮想マシン	Premium	ソケット単位	6
ポイント	Premium Edition ではファイル サーバ上のデータをリアルタイムに複製できるので、複数の仮想ファイルサーバを別の仮想マシンへ集約し複製できます。Arcserve Backup 全機能が併用できるので、Arcserve Replicationとの連携バックアップも可能です。 * Arcserve Replication 機能を利用する場合、複製元と複製先サーバ(物理/仮想 ホスト)のソケット合計数分のライセンスが必要です			

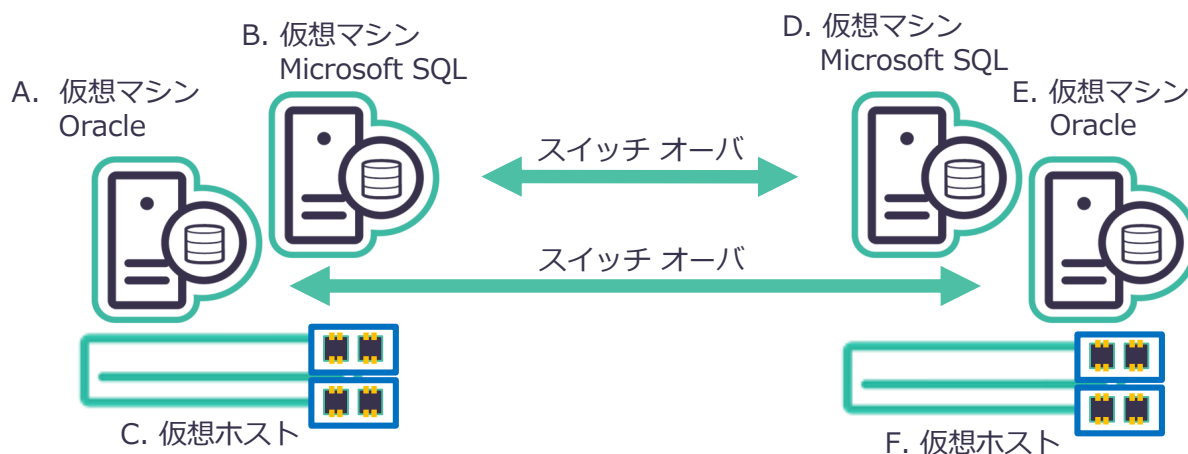
[29] Arcserve High Availability で複数の仮想DB サーバをスイッチオーバ

環境例

- 仮想ホスト2台、仮想マシン複数台
- 仮想マシン上にデータベースサーバが複数台

要件例

- データベースサーバを遠隔地に切り替え運用を継続する



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	C、F上の仮想マシン	Premium Plus	(C、Fの) ソケット単位	4
ポイント	Premium Plus Edition なら仮想マシン上のデータベースをリアルタイムに複製し、災害時には自動切り替え機能で運用継続ができます。Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ(物理/仮想ホスト)のソケットの合計数が必要です。			

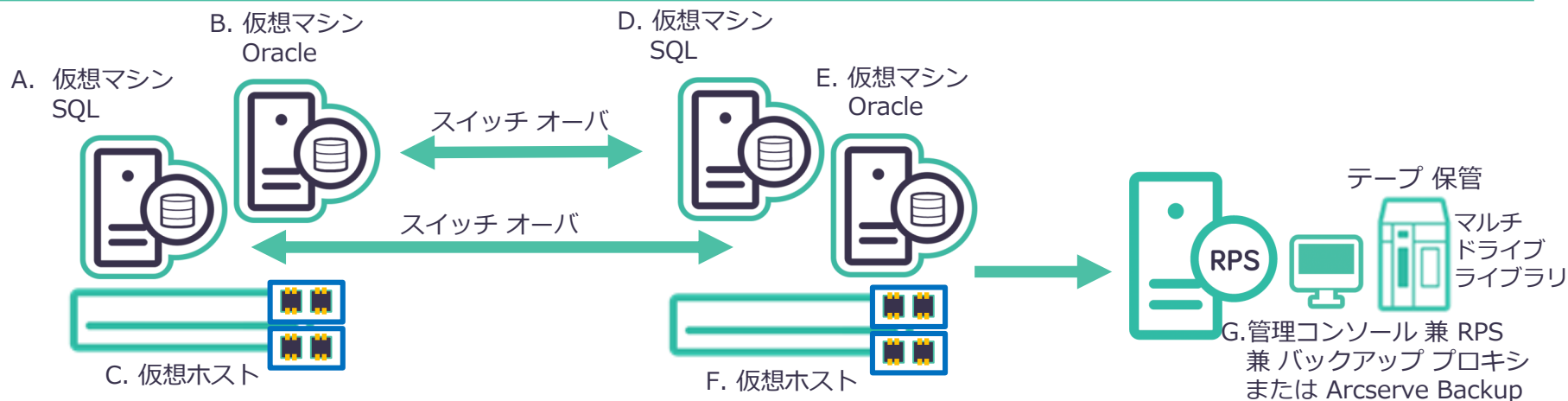
[30] Arcserve High Availability で仮想DBサーバを スイッチオーバーし、UDPでバックアップ

環境例

- 仮想ホスト2台、仮想マシン複数台
- 仮想マシン上にデータベース サーバ複数台

要件例

- データベース サーバを遠隔地に切り替えて運用を継続する
- 複製先でバックアップを行う



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	C、F上の仮想マシン	Premium Plus	(CとFの) ソケット単位	4
ポイント	Premium Plus Edition なら Arcserve シリーズ全製品が利用できるので、仮想マシン上のデータベースサーバをArcserve High Availability でリアルタイムに複製し障害発生時は自動スイッチオーバーすることでサーバを冗長化できます。さらに複製先の仮想サーバを Arcserve UDP または Arcserve Backup でバックアップすることもできます。 * Arcserve Replication/High Availability 機能を利用する場合、ライセンスは複製元と複製先サーバ(物理/仮想ホスト)のソケットの合計数が必要です			

クライアントPC

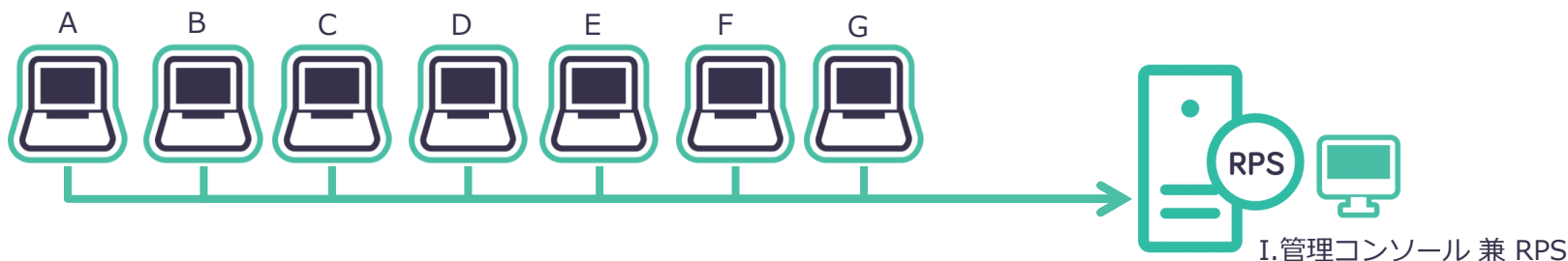
[31] クライアントPCのバックアップ

環境例

- クライアント OS が稼働するPC 7 台

要件例

- 各クライアント OS のシステムをバックアップ
- 初回はフル、2回目以降は増分のみでバックアップ時間を短縮
- ファイル単位でリストア
- 障害時はバックアップ元または別マシンに復旧（システム保護）



	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
ライセンス	A - E	Workstation	5クライアント単位	1
	F、G	Workstation	1クライアント単位	2
ポイント	Windows8 や10などのクライアント OS が稼働するマシンを復旧ポイントサーバ（RPS）や共有フォルダにバックアップし、クライアントPCのベアメタル復旧やファイル単位リストアが行えます。1クライアントパックと5クライアントパックがあります。			

Office 365

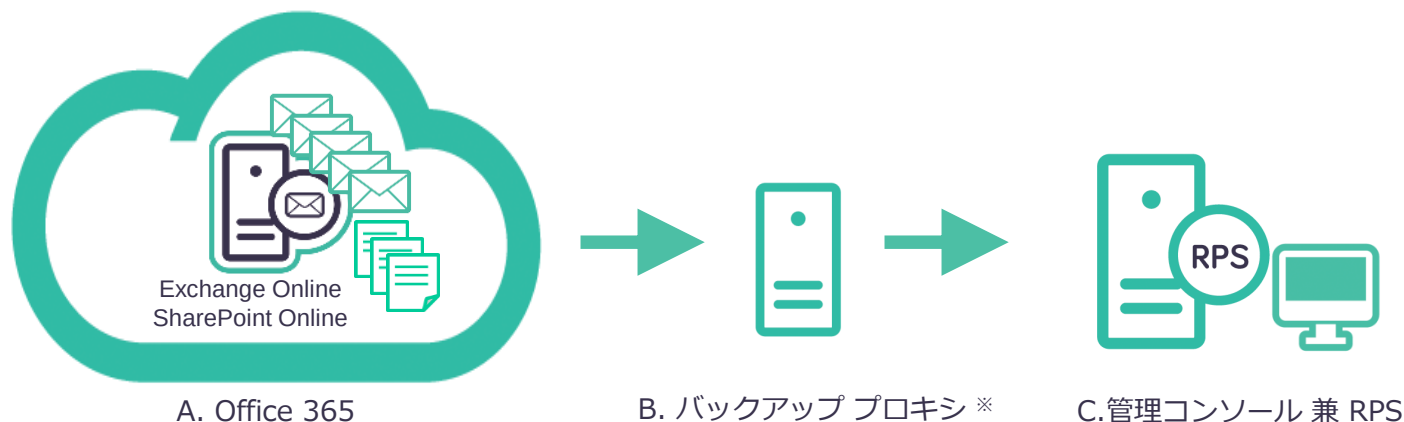
[32] Office 365 の保護 (Exchange Online と SharePoint Online)

環境例

- Office 365 データ (Exchange メールと SharePoint ドキュメント) の保護 8 ユーザ分

要件例

- Office 365 を利用しているユーザのメールと予定表、ドキュメントをオンサイトにバックアップしたい



ライセンス	バックアップ対象	Edition	購入方法	数
	A (Office 365のデータ)	サブスクリプション	10 ユーザ単位	1
ポイント	Office 365 サブスクリプションは、Microsoft クラウドからの Exchange Online (電子メール、予定表、連絡先、タスク、メモ) および SharePoint Online (サイトとリストアイテム)を保護できます。 * SharePoint Onlineの保護には有効なOffice 365ライセンスと同数の購入が必要です。 増分バックアップが可能です バックアップデータをテープへコピーを行う場合、別途ライセンスが必要です バックアップ プロキシをバックアップをする場合は、別途ライセンスが必要です			

※ プロキシとは、バックアップ処理を実行するサーバです

arcserve®